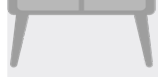


Dr. K の

ミシガン育児相談室

Vol. 32: 海外での子どもの学校について



ミシガン州の日本人ご家族のみなさん、つい4月ですね。アメリカでは新学期は秋からですが、日本人にとっては桜の花が咲くこの4月がなんといつても新しい節目を迎える気分になりますよね。これから日増しに暖かくなってきて、気分も明るくなってきます。今月の質問はなんと日本在住の「春」さんからのご質問です。

桑原先生、友人からJapan News Clubの記事を教えてください、今回メールさせていただきます。まもなく日本からノバイに家族で滞在予定です。初めての海外生活であり、今、情報を集めています。お聞きしたいのがノバイの小学校事情です。この4月で小学校1年生になる子どもがいます。滞在期間はおそらく3年くらいだと思うのですが、子どもは日本人学校に通わせた方がいいのか、現地校がいいのかで悩んでいます。友人によると、多くの日本人家族は現地の学校へ行くことが多いと伺いましたが、いずれ日本に帰るのであれば日本人学校がいいのではと、まだ迷っています。私も夫も英語は苦手です。滞在にあたって、子どもの学校が一番気がかりです。あと、ノバイ付近にはどのくらい日本人学校があるのでしょうか。ぜひご意見をお聞かせいただけると幸いです。

春さん、質問ありがとうございます。Japan News Clubでの私のコラムが2021年8月号から始まって、日本から質問を受けたのは春さんが初めてです。おそらくウェブサイトの記事を読んで連絡いただいたのでしょうか (<https://www.japannewsclub.com>)。春さんにはAmazon gift cardを送らせていただきます。

子どもを現地校に通わせるか、もしくは日本人学校に通わせるか、特に春さんのご家族のように、将来、日本に帰国することが前提となる場合は悩みますよね。外国で幼少期を過ごす、少なからず母国語の習得に影響があります。お子さんがまだ幼いうちは現地校で英語に暴露されていても、日本語補習校や自宅での日本語による勉強についていけます。しかし、学年が上がるに従って英語で考える割合が増え、日本語による学力は下がる傾向があります。この状態で日本に帰国した場合、同学年の勉強についていけない、という状況が起こりえます。また、日本からアメリカに来て現地校に入学しても、すぐには英語が身につきません。アメリカの小学校に入ったけれど、友だちもなかなかできずに、現地

にうまく適応できないお子さんがいるのも事実です。最も大切なのは、何語で学ぼうと、子どもが安心して勉強できる環境を準備してあげることです。そのため、現地校か日本人学校に通わせるかですが、お子様の年齢や滞在期間に合わせて決断しなくてははいけません。

まず現地校ですが、アメリカの小学校は居住地によって通う小学校が決まります。公立学校の授業料は学区内の住民の税金で補われており、学区内の住民の子どもはキンダーガーデン(5・6歳)から高校まで無料です(学区が良い地域ほど、子どもに良い教育を受けさせたい家族が集まるため、不動産価値が高くなり、治安も良いです。ミシガン州の中でもノバイが日本人家族に人気が高いのは、学区と治安が良いこともその理由でしょう)。同じノバイでも住む場所によって通う小学校が異なります。また、現地校には、英語を母語としない子どもたちのために、第二言語としての英語教育(ESL: English as a second language)を提供しています。Great School (<https://www.greatschools.org>)などで、学区と各現地校の情報をあらかじめ確認してみるといいでしょう。通う子どもたちの人種の割合なども確認できます。ノバイであれば、多くの小学校でアジア人の割合も高く、各学年に少なくとも数人は日本人のお子さんがあるはず。授業内容も、日本のように正しい答えばかりを求める詰め込み型の教育論ではなく、エッセイを書かせるなど論理的思考を養う教育論が主体です。

対して、日本語で授業を受けることができる現地校は、ミシガン州には「にじいろ小学校」と「ひまわり幼稚園」のふたつがあります。両校ともにノバイ近郊のリボニアにあります。春さんのお子さんの年齢であれば、にじいろ小学校が候補に挙がりますね。にじいろ小学校はリボニアに住んでなくても入学できます(「越境入学」といいます)。生徒たちの約3分の1はアメリカ駐在の日本人家族のお子さん、約3分の1は日本人のハーフもしくはクォーター、約3分の1は日系企業に勤務していたり、過去に大学で日本語を専攻していた日本に関心のある日本人でない家族のお子さんで構成されているようです。各学年が1-2クラスのみで、現地校より手厚い教育を受けることができると評判です。また、カリキュラムですが、国語は日本のカリキュラムに沿って日本語で行われるのに対して、算数は現地校のスケジュールを日本語・英語のどちらでも習い、他教科(social study(社会)、science(科学)など)は現地のスケジュールに沿って英語で学習します。国語は日本語のレベルによってクラス分けされ

筆者プロフィール:

医師 桑原功光: (くわばら のりみつ)
Children's Hospital of Michigan
ミシガン小児病院(デトロイト)に勤務する日本・米国小児科&米国小児脳神経科専門医。北海道砂川市出身。2001年に旭川医科大学卒業して早くも医師24年目。北海道から沖縄県まで日本各地で研鑽した後2012年に渡米。ハワイ大学、テネシー大学を経て、2019年より現職。趣味はアイスホッケー、ボードゲーム。



ており、日本語が母国語でない非日本人家族のお子さんには、教科書の学年を落としてゆっくりと丁寧に日本語を教えています(例:小学校6年生の子が小学校2年生の教科書で日本語を学ぶなど)。また、日本らしい行事も多く、日本文化に触れながら生活できるのも利点です。保護者への連絡メールも基本的には日英両表記です。英語の伸びが現地校よりも遅いと考える方もいらっしゃるようですが、お子さんの年齢と性格にもよります。

また、ノバイには「デトロイトりんご会補習授業校」があります。主に現地校に通う子どもたちが、いずれ日本に帰国した際にも日本語での学習が理解できるように、毎週土曜日に日本語で日本の教育課程を学習する教育施設です。ミシガンの補習授業校は全米屈指の規模を誇り、小学校から高校まで約900人もの子どもたちが現在も通っています。なんと言っても、現地校に通う子どもたちにとって、好きな日本のテレビや遊びなど共通の話題を通じて、精神的な拠り所になるのが大きなメリットでしょう。

まずはミシガンの異動先に応じた学区や上記の日本人学校・補習授業校の担当者に今から問い合わせ情報を整理した上で、家族で話し合って最終決断されるのがよいと思います。ノバイには日本語が通じる担当者もいると聞いています。私の知人家族でも、現地校・にじいろ小学校・りんご会補習授業校に通っているお子さんたちがそれぞれいますが、みんなハッピーに過ごしています。春さんのご家族にとって何が「正しい選択」かは、誰にもわかりません。必要なのは「覚悟ある決断」です。お子さんが学校で楽しく過ごせることが何より一番であり、そうでなければまた柔軟に別の選択肢をあらためて考える、それでよいのではないのでしょうか。

日米の小児科、医療、育児関連のどんなささいな質問や疑問も紙面でお答えします。質問をぜひ以下のようにメールで送ってください。質問が採用された方にはアマゾンeGift Cardをメールでプレゼントいたします。個別へのメール回答は原則として控えさせていただきます。

ではみなさん、また来月に紙面でお会いしましょう。

◆ Dr. Kへの育児に関する質問はこちらまで ◆

Email宛先: jncfaceoff@aol.com

メール件名: 「Dr.K 相談室」

メール本文: お名前と質問したい内容をご記入ください。質問が採用された当選者は紙面で質問と一緒に名前を公开发表します。匿名希望の方は「匿名希望」「イニシャル」「ペンネーム」のいずれかを記入してください。採用された方には、アマゾンのeGift Cardをメールでプレゼントいたします。

